スピーカーブック2019-2020

CDジャーナルムック

SPEAKER BOOK 2019-2020

旬なスピーカーブランド研究

ディナウディオ／エラック／ KEF ／クリプトン／ TAD

SPEAKER OF THE YEAR

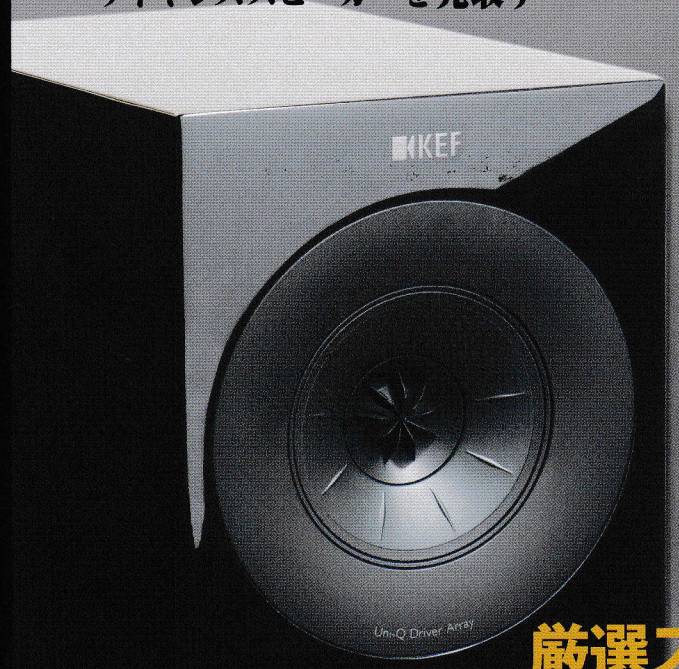
この一年、最も印象にのこったスピーカーはこれだ！

名機物語 ヤマハ NS-1000M

討論！闘論!! 理想の低音とは？

JBL4367WX を3台のアンプで聴く

ワイヤレススピーカーを先取り



厳選スピーカー

89モデル徹底ガイド

アルベド Acclara

¥6,400,000（ペア）

一般家庭には巨大すぎるサイズだが、その卓越した表現力を聴くと納得せざるを得ない

アルベドはイタリアのスピーカーメーカーで、これまでベーシックなモデルだけが輸入されていたが、今年から取り扱いが変わり最上位クラスの製品が誌面を賑わせている。

このAcclaraは上級シリーズの一環を形成するモデルだが、ハイエンドを地で行くような贅を尽くした製品である。オールセラミックドライバーの３ウーファー３ウェイ。重量は135kgに達する。

一般の家庭でこれだけのスピーカーが、必要になることはあまりない。置ききれないし、狭い部屋で鳴らしても決していい結果にはならないからである。それに高額だ。

しかしここで取り上げたのは、その再現力に隔絶したものがあったからである。大型化でなければ得られない魅力がここにはある。

アルベドはトランスミッションラインのスペシャリストとして知られている。ローマ大学物理学教授との共同研究で開発されたというが、バックロードホーンではなく、もちろんバスレフでもない。振動板背面の音波をテーパー型の音道に送り込み、気柱共鳴を発生させて低音を放出する。不要な周波数は強力に吸音して目的の帯域だけを取り出す構造だが、非常に精密な設計が要求されるため採用されることは極めて稀だという。

アルベドでは独自の解析プログラムを開発し、これによってヘルムホラインというオリジナルのトランスミッションラインを確立した。その技術が本機にも搭載されている。

ドライバーはすべてセラミックで、トゥイーターとミッドレンジは逆ドーム。ウーファー３基は緩いお椀型だ。

特殊積層板製のキャビネットは厚さ40ないし50㎜の部材で形成され、左右の側板には極厚の金属板を内部貫通のボルトで締め付けている。これで共振はほとんど生じない。

床からの高さは1.4m。ウーファーが３つもあり、普通は容易に焦点が絞れないものだが本機は違う。それほど広い部屋でもないのに、ピントがぴったり合ってピンポイントと言っていい。ピアノのステージ感など実在感満点だが、低音の出方が遅れずスピードも揃っているのが大きいようだ。コーラスは小さなアンサンブルがそっくりそこにあるようだし、オーケストラは解像度に富んで複雑なパッセージもよくほぐれる。そして低域の深さと明瞭さ。エネルギーの強大な高まりが演奏の表現力を、余すところなく描き出す。これこそハイエンド機の真価と言うべきである。

●**型式**：３ウェイトランスミッションライン　●**ユニット**：７インチウーファー×３、５インチミッドレンジ、１インチドームトゥイーター　●**インピーダンス**：4Ω　●**再生周波数**：35Hz～25kHz　●**出力音圧レベル**：86dB　●**外形寸法**：280W×1,400H×450D㎜　●**重量**：135kg　●**仕上げカラー**：ブラックレザー／ウォルナット